

西濃農林事務所の普及活動状況

平成30年1月31日現在

今月の重点活動

■ トマト 池辺園芸トマト組合でGAP内部審査を実施

池辺園芸トマト組合では、平成30年産から独自GAPの取組みを始めている。組合から生産者に取組み方針やチェック項目（22項目）が示され、1回目の自己点検を行なったことから、今回（1月15日）初めて内部審査を行った。組合役員3名、農協職員2名、普及指導員1名で構成する6名が、各生産者のほ場と選果場所及び農薬等の保管場所を確認した。

初めての審査であるため、役員にもよく理解できるように十分に時間をかけて普及指導員や農協職員より説明を行った。研修会等である程度理解は得られていたが、現場で実際に審査をすると具体的な課題と対策を考えることができた。参加者で現状把握と様々な改善点の共通認識ができたことは、大きな成果であったと思われる。今後、組合がこれらの結果に基づく改善に積極的に取り組み、生産者の意識向上につながることを期待される。



【上:内部審査の様子】

【下:審査後検討の様子】

多様な担い手づくり

■ 集落営農の法人化 西海松営農組合（輪之内町）役員会

輪之内町の西海松営農組合では、平成30年の法人設立を目指して定期的に役員会を開催しており、農業普及課も法人化に向けての支援活動を行っている。1月24日に営農組合の役員会が開催され、農業経営改善スペシャリスト（司法書士）の派遣を受けて定款等の作成検討を実施した。この中で、法人の組織、運営、出資、配当等が協議され、司法書士の助言も得て定款と今後のスケジュールが固まった。今後は事業計画や財務管理について検討する予定で、農業普及課も引き続き法人設立に向けて活動支援を行う。



【法人化に向けて一步前進:役員会の様子】

■ さといも 出荷販売指導～大垣市上石津～

「クリスタル農園 サトイモクラブ」（平成29年からさといも生産を始めた上石津のグループ。メンバーに中高年新規就農者2人含む）のさといもの出荷先は、加工業者やスーパー、岐阜市場等で、(株)クリスタルを通じ販売している。グループの出荷は現在まで約3t。ケバ取り作業は手作業で行われ、大きな手間がかかっていた。そこで、ケバ取り機を導入し、調整作業の改善をはかった。機械が1月18日に導入され、大垣市農林課の事業実施確認、機械納入業者による動作確認の後、農家の機械によるケバ取り作業が開始された。

1月26日にはグループが集まり、出荷調整作業の改善、H29年産さといもの栽培反省、H30年産生産販売計画の打ち合わせを行い、農業普及課より計画生産、計画出荷を指導した。



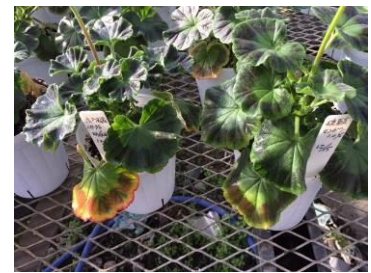
【ケバ取り作業の様子】

売れるブランドづくり

■ゼラニウム 障害葉発生対策のための要因説明

ゼラニウム（ホワイト to ローズ）は、県内 9 戸（管内 4 戸）でバレンタイン需要に向けて栽培されている。昨年、一部で障害葉が発生したため、今年度から新培土による栽培を行っている。新培土の特徴は、排水性がよく、生育が旺盛な傾向であったが、11 月下旬頃から一部の生産者で障害葉が発生した。農業革新支援専門員の助言により、ホウ酸、マンガンの葉面散布を実施したところ障害葉が再現できた。土壌溶液を調べたところ新培土は、pH が低めの傾向にあり、微量要素の過剰害を助長した可能性が示唆された。

この結果を受けて農業普及課は、肥培管理等の改善を提案していく。



【障害葉再現試験】

■GAP グローバルGAP内部検査及び県GAP説明会を実施～神戸町～

神戸町の(有)健康やさしい村では、グローバル GAP 認証取得の希望があり、1 月 12 日にイオンアグリ創造(株)の担当者による内部検査を実施した。丸一日をかけて、栽培、出荷、労務等に関する書類や施設に係る検査を受け、一部項目で不適合があったため、今後改善して認証取得を目指す。農業普及課は内部検査の対応支援を行った。

一方、下宮青果部会協議会では、岐阜県GAP取得の希望があり、1 月 16 日に説明会を開催した。農業普及課から県GAPの概要や具体的な審査のポイント、申請方法などについて説明した。今後も検討会を開催して取得に向けて支援していく。



【施設検査の様子】

住みよい農村づくり

■ブロッコリー ブロッコリー出荷及び食農体験の実施

1 月 15 日、JAにしみのブロッコリー生産協議会大垣部会の食農活動として、青墓営農組合ブロッコリーほ場において、青墓小学校 3 年生 75 人を対象に収穫体験が行われた。青墓営農組合長より栽培の概況、農業普及課から収穫の注意点について説明後、児童たちはそれぞれ収穫する株を選び、青墓営農組合員に収穫してもらった。各自が下葉のついた株を受取り、葉を取り除くと見慣れたブロッコリーの姿に変わったのを見て、これで袋に入れ持って帰れると安心していった。収穫後には、青墓研修センターへ移動し、JA青墓支店女性部によるブロッコリースープ・天ぷらの試食会が行われ、新鮮なブロッコリーのおいしさに笑顔があふれていた。



【組合長から説明を受ける児童】